



平成20年9月26日

各位

会社名 中央ビルト工業株式会社
 代表者名 代表取締役社長 西本 安秀
 (コード番号 1971 東証第2部)
 問合せ先 常務取締役管理統括本部長 安達 圭朗
 (TEL. 03 -3661 - 9631)

第2四半期累計期間の業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成20年5月21日の平成20年3月期決算発表時に公表した平成21年3月期(平成20年4月1日～平成21年3月31日)の第2四半期累計期間の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせします。

記

1. 平成21年3月期の業績予想数値(第2四半期累計期間)の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)
 (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	4,315	268	232	230	11円12銭
今回修正予想(B)	4,137	184	115	98	4円74銭
増減額(B-A)	-178	-84	-117	-132	-
増減率(%)	-4.1%	-31.3%	-50.4%	-57.4%	-
(御参考)前期中間期実績	4,417	342	301	300	14円56銭

2. 業績修正の理由

下記の主な理由により平成21年3月期の第2四半期累計期間の業績予想を下方修正せざるを得ない局面となった。

1. 営業面に於ける下方修正要因

①仮設機材賃貸部門

仮設機材賃貸部門が、改正建築基準法による工事着工遅れの影響が今期に入っても解消されないこと、公共工事の発注額が減少していること、サブプライム・ローン問題等に端を発して民間設備投資が減少していることにより、主要顧客である建設会社のレンタル需要が予想より伸びなかったことにより、営業・経常・当期純利益が62百万円の減益となる見込。尚、仮設機材販売部門、鉄構部門は概ね計画通りの見込。

②大口貸倒の発生

売上債権の一部に取り立て不能の恐れが発生したことに伴い、貸倒引当金を計上したことにより、営業・経常・当期純利益が26百万円減益となる見込。

2. 非営業面に於ける下方修正要因

①シンジケートローン組成費用の発生

9月末に三井物産より千葉工場と福岡機材センター土地を買戻しする為の資金17億8千万円をシンジケートローンを組成して調達することとなり、それに係る組成手数料等が発生することで、経常・当期純利益が36百万円減益となる見込。

②保有資産の補修費用の発生

名古屋工場の土間補修工事にかかった費用を特別損失として計上し、当期純利益が13百万円減益となる見込。

3. 通期業績予想について

平成21年3月期通期の業績予想については、平成20年5月21日の期末決算発表時に公表した予想を変更しませんが、今後、何らかの変化がある場合には適時に開示します。

※上記業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づいて算定しており、潜在的なリスクや不確実性を含んでおります。実際の業績は、様々な要因の変化により、上記予想とは大きく異なる結果となる可能性があります。

以上